

30528

教科書文庫

3
810
31-1887
20003 02809

Kodak Gray Scale

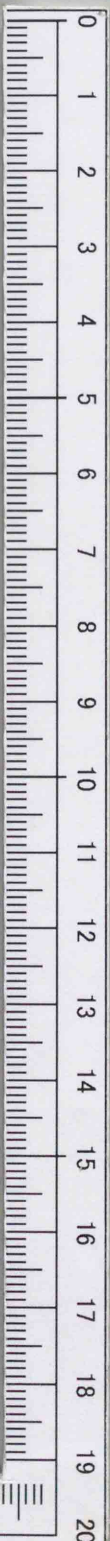
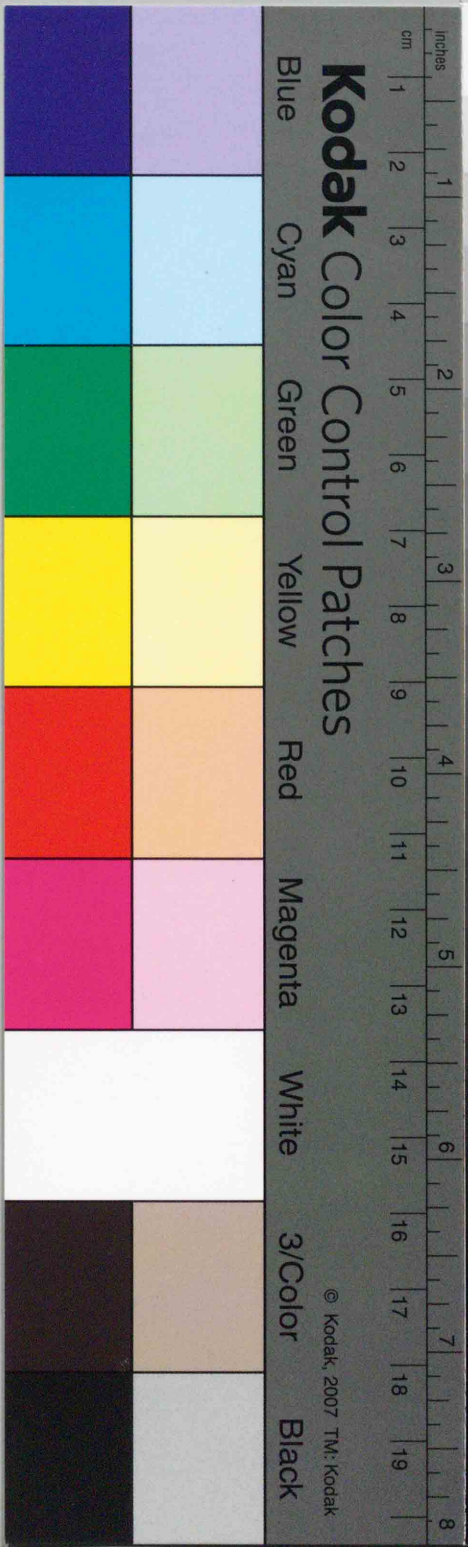


© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



3759
Uc8
資料室

實用讀本

尋常科

卷二



資料室
中央図書館

廣島
大學
圖書印

廣島大學
32498
圖書

廣島大學
圖書印

實用讀本卷二

第三十四課

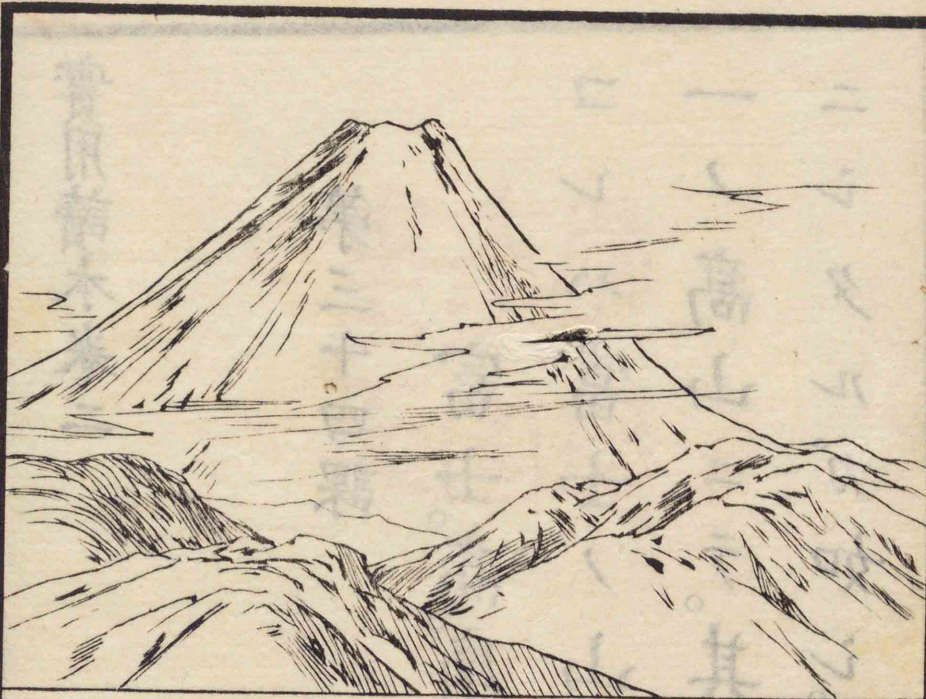
富士。高。扇。如。頂。雲。雷。

コレハ富士ノ山ナリ。富士ハ日本
一ノ高山ニテ。其形扇ヲサカシマ
ニシタルガ如シ。

實用讀本

卷二

三書



頂ニハ常ニ雪アリテ。年中タユルコトナシ。ハ汝等。此山ニノボラントスル心アリヤ。此山ニノボル時

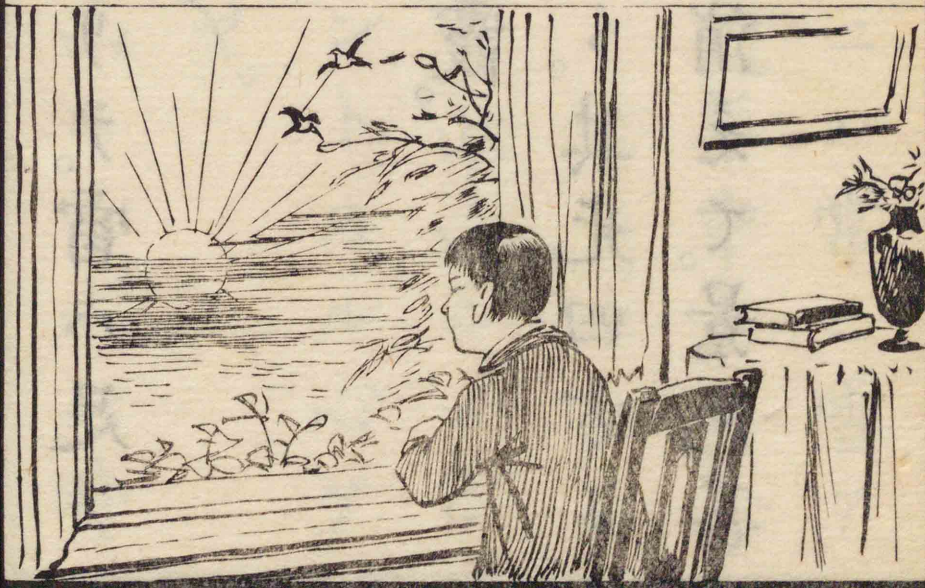
ハ。雲ハ山ノ下ニアリテ。雷ハ足ノ下ニナルコトアリ。

第三十五課

旭光晴消景霞。

今旭ハ海より出で、其光四方をかゞやき。雲晴れ霞消えて。景色甚どろろはし。

鳥ハ木々みさへづ
りて。うるハ一き旭
の光子。あふをよる
こぶみ似たり。
吾も人も。旭の光を
見る時ハ。甚どころ、
ちよきものなり。



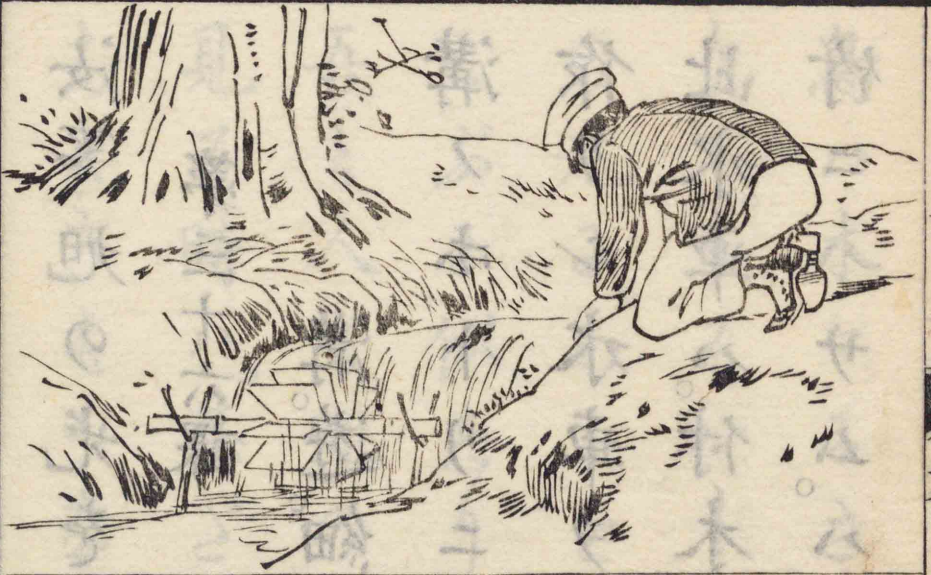
汝等。旭の光をよるこばざるか。

第三十六課

溝。遊。細。枝。立。股。底。流。

溝ノホトリニ一人ノ子アリテ。自
作リシ水車ヲ居エツケ遊ベリ。
此水車ハ。付木ヲ車ノ。ハトシ。之ヲ
竹ニハサム。ハサミタル竹ハ。車ノ

實用詩本 卷二 三 三書房藏



心木ノ用ヲナセリ。
ソレヨリ細キ木ノ
枝二本ヲ立テ。其心
木ヲ枝ノ股ニカケ
タリ。又水ノ流レ
此子ハ。又水ノ流レ
ヲツヨクシテ。車ヲ

早クマハサシガタメニ。水底ノ土
ヲサラヒ。下ゲントセリ。

第三十七課

狐狸。恐物。且。勇。提灯。使。

狐狸ハ。人をばかすものとして。大よ
恐るゝ人あり。
此子ハ。よく物のたうりを知り。且

つ勇氣あるもの
あれば。暗き夜を
もいとハジ。狐を
も恐れず。提灯を
さげてひとり使
よ行けり。
汝等。狐狸を恐る



るや。狐狸ハ人をばかすものみあら
らば。恐るべからば。我々雪マ
第三十八課

第三十八課

恰。綿。連。學校。問。休。寒。

ケサハ北風ハゲシク雪フリテ。地
上ハ恰綿ヲシキタルガ如シ。問
此二人ノ子供ハ。共ニ連レ立チテ。



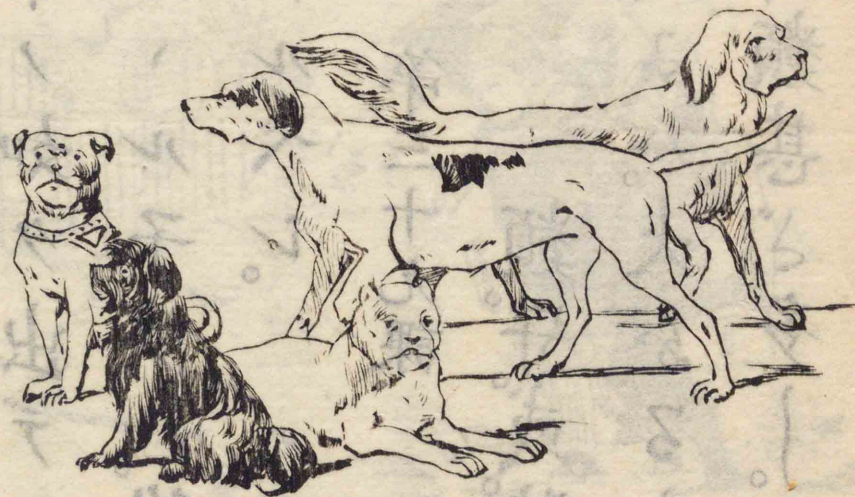
學校ニ行ケリ。
此子供ハ。學問ヲ
ハゲミテ。一日モ
休ムコトヲ好マ
ズ。寒キ風アリト
モ。深キ雪アリト
モ。イトハズシテ。

常ノ如ク出デ、行ケリ。ホウシカ
カ、ル子供ハ。後ニハ必ヨキ入ト
ナルベシ。

第三十九課

類。守。或。狩。洋。和。最。賢。

犬子ハ。大なるも小なるもありて。
其類甚ど多し。



皆人の用をたし
て。能く家を守り。
或ハ狩をなす者
なり。
洋犬ハ和犬より
も賢し。其内最も
賢きは。水をくぐ

りて。おそれし人をすくひ。雪を不
りて。こぶしし人をたすくるもあ
り。

第四十課

狼。獸。猛。過。鹿。弱。強。追。

次ニアルハ狼ノ画ナリ。

狼ハ犬ニ似タル獸ナレドモ。山ニ

住ミテ。猛キコト
ハ犬ニ過ギタリ。
常ニ兔鹿ナドノ
タ弱キモノヲ取
リクラフ。
冬ニ至レバ。勢甚
ダ強ク。野山ニテ



人ヲ見レバ。イヅコ
マデモ追ヒキ
タリテ食ハントス。
オソロレキ獸
ナリ。

第四十一課

賣。店。買。龍。直。段。聞。屋。

次ニ画けるハ。凧を賣る店あり。見
よ画凧もあり。字凧もあり。



一人の子ハ凧を
買はんとす。此子
ハ龍といふ字の
凧を見て。直段を
聞けり。
此凧屋ハ正直な
る故。子供ありと

て。高く賣ることなり。

第四十二課

虎。國。美。黒。筋。馬。程。

虎ハ日本ニハ居ザレドモ。外ニハ
居ル國アリ。
毛ノ色美シク。黄ニシテ黒キ筋ア
リ。山ニ住ミテ。外ノ獸ヲ取りテ食

ヒ。人ヲモ食ラフ。

最モオソロシキ

モノナリ。

虎ハ猫ニ似タル

獸ナレドモ。大サハ

小キ馬程アリ。

汝等虎ヲ見シコ

トアリヤ。

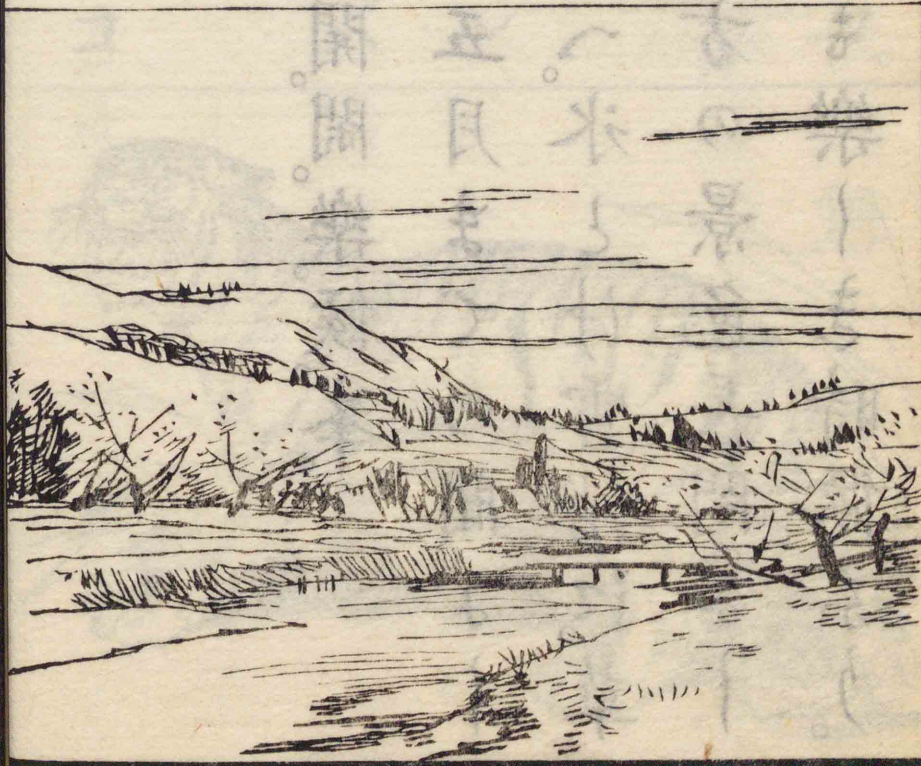
第四十三課

第。衰。間。閑。樂。候。峯。

春ハ三月より。五月までの間みー
て。寒次第サみ衰へ。氷とけ雪消江。草
木の花開き。四方の景色長閑みー
て。一年の中。最も樂レき時候あり。



春のやよひの
あけぼのに。四
四方のやまづ
をみわたせ
はなざか
りかも。し
くものマカ



らぬ峯こそ

なかりけれ。

第四十四課

葉。頃。空。鳴。蟬。聲。暑。

夏ハ六月ヨリ。八月マデノ間ナリ。
草木ノ葉茂リテ。サミダレノ頃。ホ
ト、ギス空ニ鳴キ。蟬ノ鳴ク聲聞
エテヨリ。暑サ次第ニ増シ。ヤケタル





雲ハ。峯ノ如ク立
イデ、一年ノ中。
尤モ暑キ時候ナ
リ。
ハなたちむな
もにほふな
り。のきむの

あやめもかをるなり。ゆふぐ
れさまのさみだれも。やま不
と、ぎすをのるあり。

第四十五課

秋。初。薄。朝。露。咲。霜。淋。

秋ハ八月より。十月までの間あり。
初ハ暑サを強けれど。後ハ

次第よ薄らぎ。朝
夕の風涼しくあ
りてハ。虫の聲々。
露草の中よかま
びそしく。ききや
うなでしく。咲き
みだれ。霜ねきり



めてハ。木の葉色付き。野山の景色。
なにとなくもの淋し。山々々々々
秋のはドめよ。ありぬれば。
今年もなかばハ。すぎみけり。
わがよふけゆく。月かげの。
かたぶく見ること。あはれあれ。

第四十六課

大寒四翌。吹散。落衣。捨霰。霽。



冬ハ十一月ヨリ翌
年一月マデノ間ナリ。
木枯ノ風吹キソメ
テヨリ。木ノ葉散リ
落チ。野山ハ衣ヲ又
ギ捨テタルガ如シ。

霜ハ日増ニ深ク。池水川水モ凍リ
ソメテハ。霰モフリ。霽も雪モフル
ナリ。是ヨリ寒サ尤タヘガタシ。

第四十七課

(練習填字)

富士ハ日本第一の○○あり。
鳥ハ旭の光をよるこぶ子○たり。
○車ハ水子てまはる。

狐狸ハ。○をばかすものゝあらば。
此子ハ學問をはげみ。雪ふりても
學校を○むことなり。
此犬ハ洋犬なり。洋犬ハ○より賢し。
狼ハ犬子似たる○なり。
此胤よかきたるハ龍といふ○なり。
虎ハ毛の色○よりて黒き筋あり。

春ハ○開きて。天氣長閑なり。
夏ハ草木○りて。天氣○し。
秋ハ風○くして。景色もの淋し。
○ハ草木葉○ちて。雪霜多し。

第四十八課 (練習填字)

富士ノ山ニノボレバ。足ノ下ニテ
○鳴ルコトアリ。

雲○れ霞消えて。景○甚ウルハシ。
此子ハ水ノ流レ○ツヨクセント
テ。水底ノ○ヲサラフ。

此子○物ノダウリ○知リ。且ツ勇
氣アリ。○
ケサハ○フリテ。地上ハ綿ヲシキ
タルガ○シ。

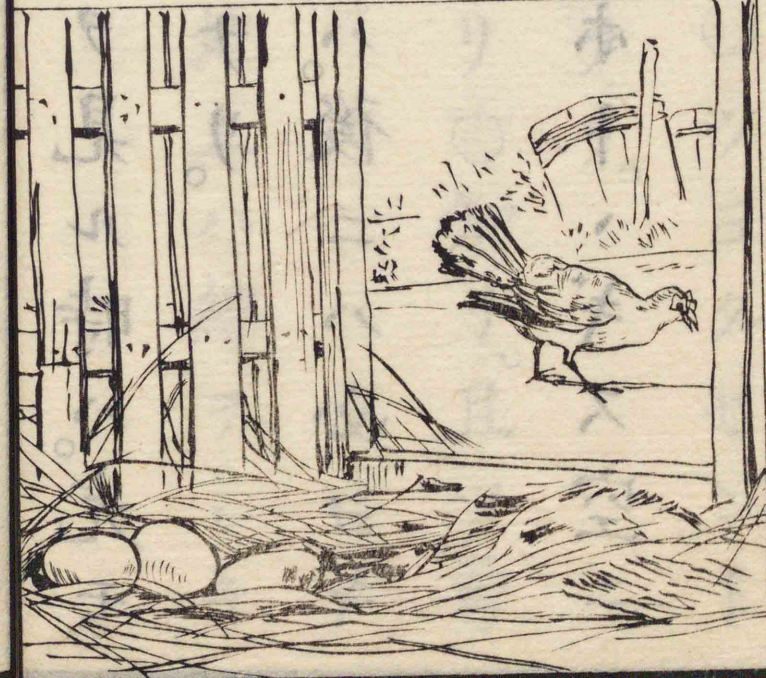
吾モ人○旭ノ○ヲ見ル時ハ。尤モ
コ、チヨキモノナリ。
學問ヲ○ム子供ハ。後ニハ必ヨキ
人ト○ベシ。

サミダレノ頃ハ。ホト、ギス空ニ
○クナリ。

第四十九課

鶏。巢。卵。生。餌。雛。愛。養。

爰。よ。鶏。の。巢。あり。
其。巢。の。中。よ。ハ。卵
四。ツ。五。ツ。あり。
母。鶏。ハ。卵。を。生。み
て。外。よ。出。で。餌。を
拾。へ。り。



此。卵。ハ。や。ぶ。て。愛。ら。い。き。雛。鳥。とな
る。も。の。あり。
汝。等。卵。を。食。ら。ふ。を。好。め。り。や。
卵。ハ。よ。く。人。の。養。と。なる。も。の。なり。

第五十課

煎。汁。管。端。喜。叫。飛。兩。

此。子。ハ。ム。ク。ロ。ジ。ノ。皮。ヲ。煎。ジ。其。汁



ヲ管ノ端ニ付ケ
テコレヲ吹キ。玉
ヤ玉ヤト喜ビ叫
ベリ。
見ヨ。玉ハ風ニシ
タガヒ。フワフワ
飛ベリ。

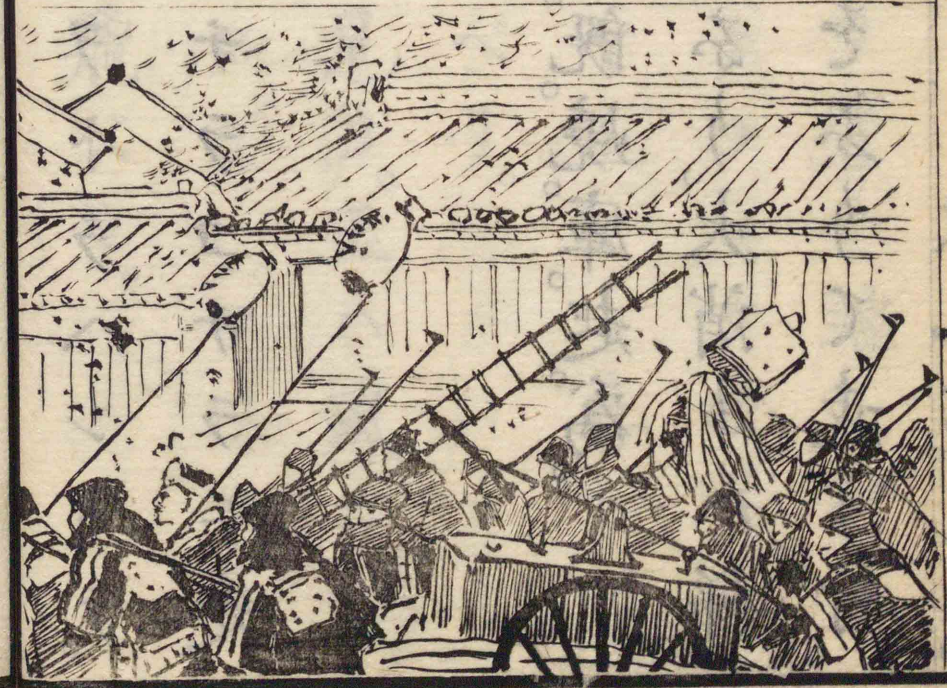
一人ノ子ハ。其玉ヲト
ラヘントテ。
両手ヲ開キテ。アチ
ラコチラニ走
リ行ク。

第五十一課

火事。處。梯。既。燒。庫。起。爲。

これハ火事の處あり。火消
ハ梯
をかたげ。まといをふりて
走り行

く。後より又ポン
プを引いて行く
者あり。火事
見よ。家ハ既子焼
け落ちて。火ハ今
庫子付けり。
此火事ハ。元子供



の火遊より起り。一あり。火遊ハ必
する事あり。れ。

第五十二課

熊。醜。指。能。登。巧。棒。鳶。

熊ハ甚ダ醜キ獸ナリ。
足ニハ五本ノ指アリ。歩ム時ハ後
足ニテ立チ。人ノ如クユクモノナ



リ。能ク魚ヲ捕リ草
ヲモ食フ。熊ハ木ニ
登ルコト最巧ナリ。
故ニコレヲ見セ物
トシ。人ニ見スル時
ハ。長キ棒ヲ立テコ
レニ登ラスコトア

リ。毛色ハ鳶色モアレドモ。大方ハ
黒キモノナリ。

第五十三課

猿。面。眞似。怒。顔。實。參。

猿ハ面白き獸にて。能く物眞似を
おし。怒る時ハ口を開き。顔をつま
出すものあり。

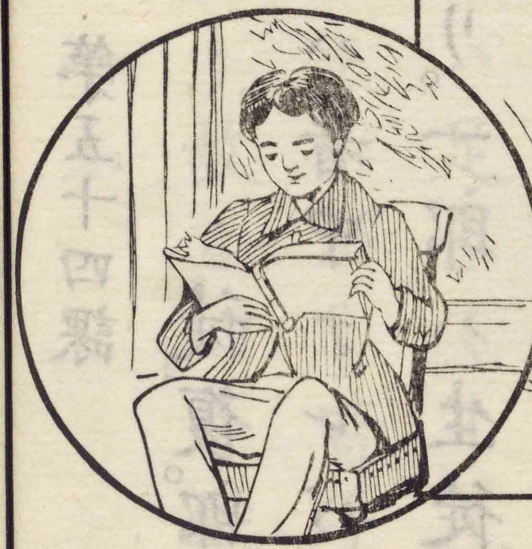
好で木の實を食
ひ。又人參いもあ
どをも食らふ。
猿ハ足あくして。
四ツあがら皆手
あり。故に四手獸
といふ。



第五十四課

徒。復。郎。蛙。蜻蛉。炎。

今ハ暑中ナレバ。學校ハ休ミトナ
レリ。一郎ハ生徒ノ中ニテ最モ賢
キモノ故。朝涼ノ中ハ能ク本ヲ復
シ。日中ハ日カゲニテ遊ベリ。
次郎ハナマケモノ故。本ヲ復スル



コトモナク。朝ヨ
リ蛙ヲコロシ。蜻
蛉ヲトラヘテ遊
ベリ。又炎天ヲモ
カマハズ。水ニ入
リテ小魚ヲトラ
ントセリ。

汝等。一郎ノ真似センカ。次郎ノ真
似センカ。

第五十五課

泳。驚。育。驚。翼。伸。求。頭。蹠。

池子泳げるハ。鶏のかへーたる驚
の子あり。
鶏ハ己ガ子と思ひて育てたるに。

今水の中よ泳げ
るを見て驚き鳴
く。
驚ハこれを如何
で知るべき。喜び
勇みて水の中よ
遊べり。



見よ。一羽の子ハ。小なる翼をひる
げて伸をあし。一羽の子ハ。頭を水
よ入れて餌を求む。

驚ハ水を泳ぎ。鶏ハ泳ぐこと能ハ
ぬハ。如何なる故ぞ。驚ハ蹠あれど
も。鶏ハ蹠ふきが為ふり。

第五十六課

書。筆。是。壽。福。命。欲。勿。

コノ子ハ。大ナル

筆ニテ大字ヲ書

ケリ。

是ハ何トイフ字

ナルカ。

壽福トイフ字ナ



リ。壽トハ命ノ長キコトナリ。福ト

ハ目出タキコトノ多キナリ。

汝等。命長カラシムヲ欲スルカ。目出

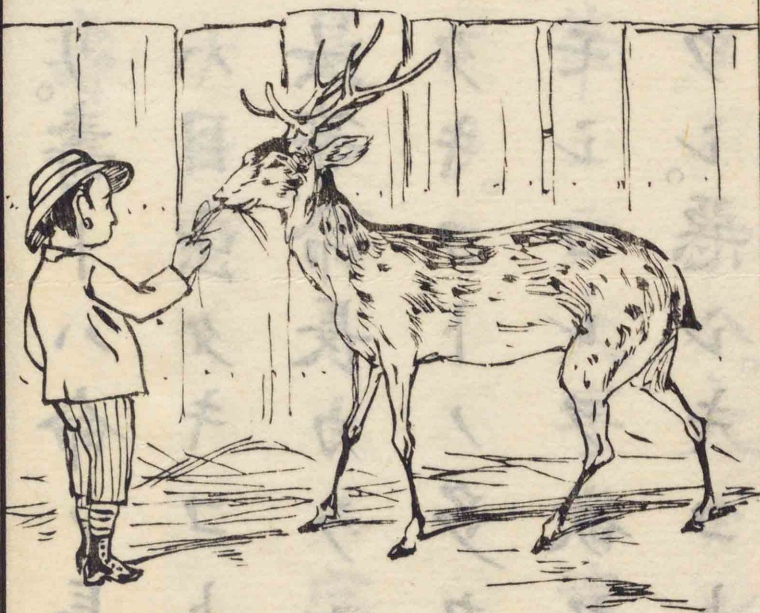
タキコトノ多カラシムヲ欲スルカ。

モシコレヲ欲セバ。常ニ養生ヲヨ

クシ。惡シキコトヲスルコト勿レ。

第五十七課

第五 飼。馴。有。牡。牝。無。彫。筒。



鹿ハ山ニ住む獸
あれども家ニ飼
ふ時ハよく人ニ
馴るゝものなり。
見よ。此子の手よ
り草を食へるハ。

馴たる故なり。

鹿ニハ角あると。角なきとあり。角
有るハ牡鹿ニて。角無きハ牝鹿あり。
鹿の角ハ枝ありて。一年毎ニ落ち
かはる。人ハこれを拾ひて彫物を
なす。色々の細工ニ用ふ。きせる筒
など。これニて作りたる多し。

第五十八課

島圍陸國示圖州

汝等島ヲ知ルカ。島トハ水ノ四面
ヲ圍ミタル陸地ナリ。平野も海も
コ、ニ示セル地圖ヲ見ヨ。大ナル
島四ツト。多クノ小島トアリ。
日本トハ。此島々ヲクルメテイフ

名ナリ。
此島々ニ
マタ各々
名アリ。ソ
ノ大ナル
ハ九州。四
國本土。北



海道ナリ。

第五十九課

蠲路。握飯。杵。種植。

昔二人の子あり。一人を猿若といひ。一人を蠲若といふ。

或日二人連れ立ちて。山み遊びける。蠲若路にて握り飯を拾ひ。猿



若ハ杵の種を拾へり。猿若握り飯を見て。杵の種と取替へんといへバ。蠲若よるこびて取り替へ。其種を家の不とりふ

植ゑたるよ。年へて大なる榊の木
とあり。實あまゝなりたり。其榊
此時猿若これをうらやめども。蟬
若與へば。皆ひとりみてとり食ら
ひいとぞ。目の前の欲よまよはば
して。後のことを思ふべきあり。

第六十課

籠。迄。懼。罪。苦。儘。閉。



林ノ中ヲカケ走
ル子供アリ。何ヲ
スルカト見レバ。
小鳥ヲ捕ヘテ籠
ノ中ニ入レタリ。
其鳥今迄ハ林ノ

中ニ。自由ニ飛ビメグリテ。樂シク
 遊ビタリシガ。今ハ籠ノ中ニ在リ
 テ。翼ヲモ伸バシ得ズ。聲ヲモ出シ
 得ズシテ懼レタリ。
 汝等。此子供ハ。罪ナキ者ヲ苦シム
 ルトハ思ハズヤ。
 モシ汝等外ニ在リテ。氣儘ニ遊ベ

ルニ。人アリテ。コレヲ一間ニ閉ヂ
 籠メナバ。如何ニ悲シカルベキ。コ
 レヲ思ハズ。ユメク鳥ナドヲ苦シ
 ムルコト勿レ。

第六十一課

(練習填字)

此卵ハやゝて愛らゝき雛鳥とな
 るもの○○○

此火事の。元子供の○遊びより○
りりあり。熊の魚を○り。草を食ひ。又よく木
よ○るけものなり。

猿の面白き○よて。能く物○を
ふく。怒る時の口を○きて。顔をつ
き出○ものなり。

猿ハ足おくりて。四ツおのら皆○
なり。

第六十二課

(練習填字)

鷺ハ水ヲ泳ギ。鶏ハ○グコト能ハ
又ハ○○ナル故ヅ。
壽トハ○ノ長キナリ。福トハ目出
タキコトノ○キナリ。

實用讀本 卷二

養生ヲヨクシ惡シキコトヲスル
コト○レ。ハ身ヲナリ。詠ハ日出
鹿ハ山ニ○ム獸ナレドモ。○ニ飼
フ時ハ。ヨク人ニ○ル。モクナリ。
鳥ハ水ノ○○ヲ圍ミタル陸地ナ
リ。○
實用讀本卷二終

明治二十年二月二十一日 版權免許
同 二十年三月 出版
同 年九月三日 訂正再版御届

編輯人 千葉縣平民 内田嘉一
本郷區駒込西片町十番地

出版人 埼玉縣平民 長島爲一郎
北足立郡鴻巣宿百廿五番地



東京府平民 牧野善兵衛
日本橋區通四丁目七番地

東京府平民 吉川半七
京橋區南傳馬町二丁目十二番地



